

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 9 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200189		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム舟入・みどりの家		
所在地	広島市中区舟入中町9-16 三和ビル3・4F (電話) (082) 295-4910		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490200189&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年9月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

以前より畑作業をしたいという話が出ていたのですが、都会のど真ん中では土地がなく、借りるにしても場所が郊外で遠いということもあって、実現できていませんでしたけど、屋上でも作れる菜園キットがあるということで、近々畑作業を開始する予定。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は約4年前に、広島市の都心部のビルの3・4階を活用して開設され、企業理念「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を掲げ、ホームではなく今まで生活してきた入居者の家庭での生活の延長を目指し、そして入居者一人ひとりの思いを受け止め、趣味に合わせた個別対応に力を入れている。共有空間もゆったりとしたスペースで、ホームの中は清掃も行き届いて清潔に保たれている。各ユニットごとに今年度の目標を掲げ、全職員に対し個人目標も設定され、半年ごとのホーム長との個人面接もなされている。問題点も改善され、職員の介護に取り組む姿勢も良くまた熱意も強く感じられた。

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	オープン当初から理念は意識してはいるものの、忙しいときなどにはスタッフの都合であったり、関わりが不十分になったりすることもある。	基本理念「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を念頭に、月2回開催される職員ミーティングを通じ、全職員の意識を統一し、入居者に対しゆったりと寄り添い、今までの生活習慣・趣味に沿った個別対応の介護支援に、全職員が一丸となって努力されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年から近所の集会所で毎月行われている介護予防体操に数名が参加するようにしている。地域の行事にはできるだけ参加している。ですがどちらも行ける人が限られている感じがする。	地域の行事などに積極的に参加し、地域住民の方々との交流に努められているが、商業地域に位置するだけに交流に苦労されている。今年度は、地域とのつながりの改善を期待したい。	今年度も引き続き地域の人脈を駆使して、地域住民の方々との交流に努力されている。これらの取組みにより地域の一員として認知され、事業所の非常時に協力のいただける関係の確立を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議などで地域の方から質問等があれば答えるくらいで、こちらから積極的に何か発信しているというところまではできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	お互いの行事の情報交換をして、それぞれの行事に参加するようにしている。屋上菜園が始まれば、近所の方にも来てもらって一緒に作業できればと検討中。	昨年度課題であった会議の開催は改善され、定期的に二ヶ月に一回開催されている。今年度は、事業の円滑な推進・介護サービスの向上に向け、運営推進会議への出席者の見直し・開催議題等を工夫をされ、参加者からの積極的な改善提案をもとにして、更なる介護技術・介護サービスの向上を期待したい。	現在参加頂いている、民生委員協議会会長のお力を得て、行政の担当者・自治会会長・地域の民生委員等々の新規参加を求め、幅広い方々からの意見・提案を参考に有意義な運営推進会議の開催をされ、介護サービスの向上に活かされる事を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	何か用事があるときくらいしか連絡することはない状況。	行政の担当者に対し、やや消極的な接し方のように感じます、今後は運営推進会議の報告書の持参・介護保険関係の相談等、また市の主催の各種研修会に参加するなど、積極的な連携努力を期待します。	

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていないしする気もないので今後もしない方向ですが、玄関の鍵については、場所を考えるとやむをえないので施錠は行なっている。	新入職員研修など定期的な研修も実施され、ホーム長以下職員の意識も高いが、身体拘束マニュアルの掲示・職員の研修参加報告書（研修記録）等整備される事が望まれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホーム内ではもちろん虐待をするようなことはないですが、自宅に帰られたときにそうならないよう、介護の注意点などはご家族に説明するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	浅くは理解しているが、現在制度を利用するようなことがないので、その必要性が出てきたら改めて勉強したいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に細かいことまで説明しているが、入居後にも問い合わせ等があることもあるので、その都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られるご家族にはその都度意見や要望を聞き、できる範囲で要望に応えるようにしている。	運営推進会議へ家族の出席と、ホームへの来訪もやや少ない感じであるが、来訪されたご家族に対しては十分に要望を聞き、運営に反映されている。今後は、家族会等を通じ、家族と良好なコミュニケーションの確立が望まれる。	

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月2回全体ミーティング、毎月1回小ミーティング、社員ミーティングを行い、それ以外にも個別で話を聞いて反映するようにしている。	毎月二回の全体ミーティング、毎月一回のユニット毎のミーティングが開催されており、本社担当者も出席され、職員からの意見・提案も積極的にあり、本社からの要望・ホーム長の方針などの普及も徹底され、事業所の運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与に関してはなかなか対応が難しいところですが、何かイベントをしたいというときなどには、勤務を調整したりして行動しやすいようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修は毎月2回ミニ勉強会を行ったり、年に2～3回全体の研修も行っている。社外の研修は情報があれば公表して参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同じグループ内の他ホームとは交流を行っているし、毎月1回合同で勉強会を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に聞き取りした情報以外に本人に聞いたりして情報収集し、それを元にケアの仕方を検討している。		

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	なかなか遠慮して本音を聞き出すのは難しいこともありますが、できる限り細かい要望も聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の意見を優先しがちですが、本人と家族の要望がかけ離れないようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	つつい忙しいときなどでできていないこともあるが、そうならないように気をつけてはいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	お世話になっているのだからと遠慮することや、反対にまかせっきりになどもありますが、一緒にという意識を持ってもらうようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔住んでいた家などに出かけたりしている。	入居者の方々の馴染みの方や、生活場所との関係継続支援は大変難しいが、入居者の方々の要望を聞き出し、可能な限り支援に努めている。	

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	9人いるとみんながみんな仲良しというわけでもないが、一緒にレクをしたりして関わりあえるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば対応しているが、これまでそれほど必要となることがない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	小さいながらも集団生活なのでできる範囲で対応している。	基本理念である「ゆっくり・いっしょに・たのしく」をモットーに、職員は日頃の関わりの中で入居者の意向などの把握に努め、一人ひとりの要望に沿った介護サービスがなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までやってきたことは引き続きホームでもやってもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルだけでなく観察することで状態把握するようにしている。		

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフによって見方や感じ方が違うので、それぞれの意見を聞きながら作成している。	日々記録している介護日誌を参考に、月二回実施する全体ミーティングで意見を出し合い、家族の方の要望を交え現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画したけどできなかったことや計画時とは変化したことを中心に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	オープン当初から自由に、自宅に近い状況で過ごしてもらいたいと思っているので、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	特別これといった具体的なことはできていないが、全くできていないこともない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には往診で対応しているが、必要に応じてご家族、本人と相談の上受診をしている。	基本的には、協力医の定期的な往診で対応されている。家族の要望があれば入居者の以前のかかりつけ医の受診も、出来る体制も整備されている、	

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	何かあれば看護師と管理者に連絡し、必要に応じて主治医の指示をあおぎながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にお見舞いに行ったりして情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	最近の入居の段階である程度終末期の対応などについて話し合っておくようにしている。	入居時に口頭で重度化・終末期の対応について説明されている。今後、家族から看取り迄の支援への希望があることを踏まえて事業グループ全般で、重度化・終末期の対応を明確に定め、書面で入居時に説明出来る体制の確立が望まれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡先などを一覧にして対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練などを行い、対応できるようにしている。	年二回防災避難訓練が行われ、職員の防災意識の向上が図られている。平成23年度には、スプリンクラーの設置が計画されている。	防災訓練は定期的に行われているが、訓練計画・夜間の避難マニュアル等の作成、また研修・避難訓練等の実施記録の作成保管、その他非常災害時に通報する、関係機関の一覧表の作成と掲示、また地域との協力体制の確立努力を期待します。

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉づかいにはスタッフ同士でも気を付けている。	職員採用時に基本研修を行い、以後も定期的に研修が行われている。管理者を始め全職員は、日々入居者との関わりのなかで、言葉づかいや態度に気を付けて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフの都合で進めていかないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	忙しいときなどにはスタッフの都合になることもあるが、できる限りそうならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝起きたら着替えや洗面などはきちんとするようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューは決まっていないが個人個人に別メニューというわけにもいかないもので、できる範囲内でできる限りの対応はしている。	各ユニット毎に利用者の好みを取り入れ、職員が献立を考え、利用者の方と一緒に作り、職員も同じ食事を食べ、後片付けも利用者と一緒にするなど、家庭的で食事を楽しむ支援が行われている。また、小人数による外食なども行われている。	

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分をあまり取らない人にはポカリゼリーなどで水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医の指示を受けながら口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間などだいたい決まった時間に排泄がある方にはその時間に誘導するようにしている。	職員が日々の関わりの中で、利用者の習慣を掴み、早めにトイレへの誘導を行うなど、排泄の自立支援に努力されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	できる限り薬に頼らずに食事や運動で排便できるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	夜間入浴したい人も多いのですが，日中の遅い時間くらいの対応しかできていない。	基本的には，毎日の入浴も可能である。利用者の希望やタイミングに合わせた，入浴支援が行われている。	

4階

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中あまり寝すぎないようにし ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	様子を見ながら薬の量を調整し たり、主治医と相談して薬を変 えたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	個別にレクや買い物をするこ ともあればある程度大人数で 一緒にレクをすることもあり、 いろいろな楽しみ方ができるよ うにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	毎日外出できるというわけでは ないのですが、行けるときには なるべく声かけをして行くよう にしている。年に2回はバスを 借りて小旅行、個別でも時々 ドライブに出かけている。	街中に位置するグループホーム であるが、近くに公園・川沿 いの散歩道等もあり、天気の良い ときには、積極的に外出支援が なされている。また、年二回は ご家族と共に小旅行も行われて いる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	大金でなければ本人に管理して もらっているし、買い物も行け るときには行くようにしている。		

4階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使ってもらっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	朝、晩どうしても使う時間が重なることがあるが、トラブルにならないよう配慮している。	共用空間は広くそして明るく、窓辺にはグリーンの植木等も配置され、壁には楽しかった旅行の写真等も飾られている。また、全ての共用空間も整理整頓され、清掃も行き届き、居心地良く過ごせるよう努力されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	基本的には日中の過ごし方は自由なので、居室で過ごしてもリビングにいてもどちらでもいいのですが、ずっとこもりっきりにならないよう時々声かけをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できる限り今まで住んでいた部屋に近い状態になるようにご家族にお願いしている。	利用者が、今まで生活されてきた環境に近い居室に暮らせるよう、出来るだけ今まで使用されていた馴染みの品を持ち込み、楽しく暮らせる居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	何でもかんでも介助するのではなく、できることはやってもらうようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	オープン当初から理念は意識してはいるものの、忙しいときなどにはゆっくりできていないこともいっしょにできていないこともある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年から近所の集会所で毎月行われている介護予防体操に数名が参加するようにしている。地域の行事にはできるだけ参加している。本人の希望もあるが、参加する人が段々決まった人になってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議などで地域の方から質問等があれば答えるくらいで、こちらから積極的に何か発信しているというところまではできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	お互いの行事の情報交換をして、それぞれの行事に参加するようにしている。屋上菜園が始まれば、近所の方にも来てもらって一緒に作業できればと検討中。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	何か用事があるときくらいしか連絡することはない状況。		

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていないしする気もないので今後もしない方向ですが、玄関の鍵については、帰宅願望の強い方が多いし、特に夜間スタッフが1人のときに多いのでやむを得ず施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホーム内ではもちろん虐待をするようなことはないですが、自宅に帰られたときにそうならないよう、介護の注意点などはご家族に説明するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	浅くは理解しているが、現在制度を利用するようなことがないので、その必要性が出てきたら改めて勉強したいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に細かいことまで説明しているが、入居後にも問い合わせ等があることもあるので、その都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られるご家族にはその都度意見や要望を聞き、できる範囲で要望に応えるようにしている。		

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月2回全体ミーティング、毎月1回小ミーティング、社員ミーティングを行い、それ以外にも個別で話を聞いて反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与に関してはなかなか対応が難しいところですが、何かイベントをしたいというときなどには、勤務を調整したりして行動しやすくしている。勉強会の開催などもテーマを一緒に考えたりしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修は毎月2回ミニ勉強会を行ったり、年に2～3回全体の研修も行っている。社外の研修は情報があれば公表して参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同じグループ内の他ホームとは交流を行っているし、毎月1回合同で勉強会を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に聞き取りした情報以外に本人に聞いたりして情報収集し、それを元にケアの仕方を検討している。		

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	なかなか遠慮して本音を聞き出すのは難しいこともありますが、できる限り細かい要望も聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の意見を優先しがちですが、本人と家族の要望がかけ離れないようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	つつい忙しいときなどでできていないこともあるが、そうならないように気をつけてはいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	お世話になっているのだからと遠慮することや、反対にまかせっきりになどもありますが、一緒にという意識を持ってもらうようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔住んでいた家などに出かけたりしている。		

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	9人いるとみんながみんな仲良しというわけでもないが、間にスタッフが入ってうまく関係作りができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば対応しているが、これまでそれほど必要となることがない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	小さいながらも集団生活なのでできる範囲で対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までやってきたことは引き続きホームでもやってもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルだけでなく観察することで状態把握するようにしている。		

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフによって見方や感じ方が違うので、それぞれの意見を聞きながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画したけどできなかったことや計画時とは変化したことを中心に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	オープン当初から自由に、自宅に近い状況で過ごしてもらいたいと思っているので、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	特別これといった具体的なことはできていないが、全くできていないこともない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には往診で対応しているが、必要に応じてご家族、本人と相談の上受診をしている。受診の際は原則ご家族にお願いしている。		

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	何かあれば看護師と管理者に連絡し、必要に応じて主治医の指示をあおぎながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にお見舞いに行ったりして情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	最近の入居の段階である程度終末期の対応などについて話し合っておくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡先などを一覧にして対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練などを行い、対応できるようにしている。		

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉づかいにはスタッフ同士でも気をつけている。なじみの関係＝友達というわけではないので友達言葉にならないよう注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	スタッフの都合で進めていかないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	忙しいときなどにはスタッフの都合になることもあるが、できる限りそうならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝起きたら着替えや洗面などはきちんとするようにしている。入浴も強制はしていないが、なるべく入ってもらうようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員と一緒に準備や食事，片付けをしている。	メニューは決まっていないが個人個人に別メニューというわけにもいかないので、できる範囲内でできる限りの対応はしている。時には少人数のみで外食したりもしている。		

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分をあまり取らない人にはポカリゼリーなどで水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医の指示を受けながら口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間などだいたい決まった時間に排泄があるかたはその時間に誘導するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	できる限り薬に頼らずに食事や運動で排便できるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	夜間入浴したい人も多いのですが，日中の遅い時間くらいの対応しかできていない。		

3階

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	日中あまり寝すぎないように している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬を出すと薬に依存してしまう 方がいるので、よく様子を見な がら薬の量を調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	割と元気な方が多いので、い ろいろ手伝ってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	午後から時間に余裕があるこ とが多いので少人数で出かけ たりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	ホームの買い物のときに一緒 に出かけて買い物をしてもら ったりしている。		

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	基本的には好きな時間に自由にかけられるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングとの温度差があまりないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の時の席の配置を工夫したり、スタッフが間に入って一緒に話をしたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できる限り今まで生活していたところに近い感じになるようにしてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できることはやってもらうようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム舟入みどりの家

作成日 平成 22年 10月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流があまりない	今まで通り地域の行事には参加しつつ、行事以外の清掃活動などにも参加していく。	町内会長などに地域の行事等の予定を聞いて、細かいものにも参加していく。ホームの行事にも参加してもらえよう声をかける。	1年
2	3	運営推進会議の参加率	参加者を増やすことと内容を充実させる	構成員の見直しと参加してもらえよう毎回の挨拶に回る。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。